

第6回 氷見市景観形成重点地区指定検討委員会 議事録

日 時 令和6年5月22日(水) 14:00~16:00

場 所 氷見市役所 301 会議室

出席者

(委員) 川合委員長、藪谷副委員長、大嶋委員、北委員、松木委員、河出委員、浅井委員、鎌仲委員

(市) 氷見市役所建設部都市計画課 宮下課長、瀬戸、西田、江畑

(URDI) (株)都市環境研究所 大野、下山、稲葉

◇次第

開 会

課長あいさつ

報告事項

1. 今後の進め方について (資料1)
2. 景観まちづくりウィークについて (資料2)

議 事

1. 第5回検討委員会等におけるご意見とその対応 (資料3)
2. 景観形成重点地区 景観まちづくりプランについて (資料4)

意見交換

閉 会

◇配布資料

- ・ 座席表
- ・ 出席者名簿
- ・ 第5回氷見市景観形成重点地区指定検討委員会会議録
- ・ 今後の進め方について 資料1
- ・ 景観まちづくりウィークについて 資料2
- ・ 第5回氷見市景観形成重点地区指定検討委員会におけるご意見とその対応 資料3
- ・ 景観形成重点地区 景観まちづくりプランについて 資料4
- ・ 景観まちづくりウィークアンケート結果 参考資料1
- ・ 景観形成重点地区 景観まちづくりプラン 参考資料2

〈議事概要〉

開会

あいさつ（宮下課長より開会の挨拶）

報告事項

1. 今後の進め方について （資料1）

委員長： 報告事項1について、事務局より説明をお願いします。

（資料1に基づき、事務局より説明）

委員長： ただいま説明があったことについて、ご質問などございますか。

委員一同： 質問無し。

2. 景観まちづくりウィークについて （資料2）

委員長： 報告事項2について、事務局より説明をお願いします。

（資料2に基づき、事務局より説明）

委員長： ただいま説明があったことについて、ご質問などございますか。

副委員長： 高校生プロジェクトと当日のサポートをさせていただき、先ほどの報告の通り、良い成果が見られたと感じている。景観まちづくりウィークで市民や地域の方の参加や理解が得られ、参加の機運が高まっているので、今後のまちづくりに繋げていくためにも、震災復旧・復興のため活動休止中でもニュースレターの発信などできることを探し、令和7年度以降の取組に上手くつなげていきたいし、我々や周りの方々もサポートできればと感じている。

委員長： 今年は震災復旧で大変だと思うが、何かの形で細く続いていくようなことがあればいいと感じる。

議事

1. 第5回検討委員会等におけるご意見とその対応 （資料3）

委員長： 議事1について、事務局より説明をお願いします。

（資料3に基づき、事務局より説明）

委員長： ただいま説明があったことについて、ご質問などございますか。

委員一同： 質問無し。

2. 景観形成重点地区 景観まちづくりプランについて （資料4）

委員長： 議事2について、事務局より説明をお願いします。

（資料4に基づき、事務局より説明）

- 委員長： ただいま説明があったことや全体について、ご質問・ご意見などございますか。
- 委員 A： 令和 6 年度は災害復旧に注力するとのことだが、実際に国道 415 号は被災しており、路面がでこぼこしている。当然景観と復旧は少なからずリンクしている。文化会館も駐車場は応急措置状態である。国道 415 号の復旧工事の見込み、スケジュールを教えて欲しい。
- 事務局： 現在災害査定を受けているところである。ご承知の通り市内のかなりの面積で液状化被害がでている。市では、公共施設と民地を一緒に液状化対策できないかと検討している。工法については、地震工学等の学識の意見を受けながら決定し、それに基づき復旧工事を実施する。一般的に液状化対策は道路の中に水位を下げるための暗渠配水管を入れる、揺れに強い補強材を埋設する等の工法となるため、今道路の舗装面を直してしまうと液状化対策のための工事が二度手間となってしまふ。また、同時に下水道管の復旧もやらなければならない。何度も道路を掘り返すのは住民の負担であり税金の無駄遣いという見方もある。なるべく効率的に復旧事業にあたるためにも時間をいただく必要があり、明確なスケジュールを本日お示しすることが難しい状況である。
- 委員長： 復旧時期の目途が立っていないということか。
- 事務局： 新聞報道では 10 月を目途にと出ているが、実際には工法を決め、住民同意合意が必要であり、同意のとれた場所から工事を進めていくことになる。
- 委員長： 景観まちづくりの委員会なので復旧事業に対してデザインコントロールできることが望ましい、令和 6 年度は一時休止のため、令和 7 年度にそれが実施できれば良いが、復旧工事が先に走った場合に景観まちづくりとしての観点はどうなるのか。歩道の路盤など市の方で勝手に決めてしまうことになるか。
- 事務局 「富山県公共事業の景観づくり指針」があり、それに準じて景観に配慮した整備となることは間違いないが、本地区としてデザインの指定はしていない。なお、氷見土木事務所との調整の中では、復旧を優先させる観点から、国道 415 号歩道部のインターロッキングは同系色のカラー舗装になる見込みであるが、具体的には今後の調整事項である。復旧が第一優先にはなるが、そのなかでできる限りデザインの調整をしたい。
- 委員 B： 半壊以上の世帯に対してアンケートを実施し、570 件の回答があった。この結果に基づいた対策とするのか、それが地域によって異なるのかなどが気になる。液状化により住宅が被災しているが、二度と起こらないようにするためには急いではいけない。どのような工法が適切か真剣に考え、住民の理解を得て実行すべきである。一方で、景観や観光という観点からは復旧だけでなくプラスのアクセラを踏んでいかなければならない。それらを踏まえたスピード感ある検討と行動が必要であろう。
- 計画の言葉の使い方には考え方や哲学が必要であり、例えば、「おもい（想い・思い）」「いかす（活かす・生かす）」など言葉選びを慎重にしたい。
- 委員 C： 対象区域の被災状況をみると本計画案を大幅に見直しや議論しなければならない

状況ではないように感じており、これまで通りの基本的なスタンスをまとめていくのがよいのではないか。

一方で、自分自身の家も黒瓦、しっくい外壁であるが、自宅近所でも、瓦屋根の被害が多く、棟瓦の破損などがみられた。補修・改修において、瓦ではなく軽い銅板等の他素材とする、しっくい外壁も少しの歪みで割れ落ちるためやめる等、地震を通して素材に対する見方が変わるのではないか。計画でも黒瓦について記載をしているが、そのままの考え方を踏襲していいのか、住民の意識が変化している可能性を考慮した表現とするのか。地震を経て計画内容を大きく見直す必要はないと思うが、パブリックコメントなどでそうした意見も出るかもしれないため、対応の検討をしておいた方がよい。

委員 D： 目指す姿が「わかりにくい」という指摘に対して、パースを書いてくれてよくわかるようになったと思う。非常に難しいことだが、景観と住まいと暮らしによって形づくられるものをもっと説明する意義があるように思う。特に氷見 IC アクセス地区は、現況すでに取り組んでいることについて書いているだけの印象を受けるので、もっと素敵なことを見つけて欲しい。

委員長： まちづくりを進める中で復興は大事なことであり、最終的には住民も関わって進めていかなければならない。その際に「将来こうあったらいい」というイメージを共有できるとよい。復興支援も兼ねてみんな共通したイメージを持てれば、修繕や建て替え等の際に参考となるのではないか。

また、応急危険度の判定をしていたところ、新しい瓦は全く落ちておらず、古い瓦が落ちている傾向が見られる。瓦の付け方、棟の抑え方が今と昔で異なる。屋根が軽い方が耐震計算上は有利になるのは間違いないが、瓦であるから被害を受けるということでは決してないため、その辺りは注意が必要である。復興まちづくりを進める上で、そのあたりの情報提供を住民にして、安心して景観への意識をもってもらえればよいと思った。

委員 E： 今後の進め方について、本計画の実現には議会の理解や合意を得ながら支援を進めて行くことになると思うが、議会への説明のタイミングはいつ頃を想定しているのか。

事務局： 令和4年度から本計画の検討を進める中で、これまでも予算要求時に議会への説明は行っている。今後、住民説明会やパブリックコメントを実施することと合わせて、都市計画審議会にも諮っていくことになる。それらのタイミングも考慮しながら議会説明していきたい。

委員 F： 推進プロセスの内容を読み、中長期で20年はかかる長い取組みであると感じた。活動により氷見の魅力が高まり、移住者ももっと増えているのか、その時の景観やまち並みがどうなっているのか興味がある。今年度は、一時休止とのことであるが、イベントのお手伝いや日々の中で参加できる活動があれば、できる限り参加したいと感じている。

委員 C： 令和6年度の検討は休止とのことだが、景観ウィークのような活動は継続しないの

か。

委員 A：芸術文化館としては、震災復旧の色合いも含めてより積極的に市民活動やワークショップなど人が集う活動をしていきたいと考えている。現在やっている展覧会でも毎週末マルシェをやっており、次回の展覧会でも同様の計画である。

事務局：これまで市主体のイベントが多かったが、今年度の主要予算は全て復興関連に充てられることになっている。そうした時に芸術文化館の力を借りて、公共空間で少しでもイベントを実施していただけると、少しでも景観の意識が続いていくと思う。事業主体は異なるが、活動の見える場として続けていくことについてお力を借りていきたい。

委員 D：予算がつかないので、活動の継続ができないということだと思うが、令和7年度以降は予算をつけ、長期にわたり活動を継続していくということになると思っていますか。

事務局：行政予算に依らず活動がみえる場づくりを将来的には描いている。そこに対して、支援がどこまでできるかがポイントだと考えている。これまでは行政予算がメインだが、市民等の力を終結させ、仕組みづくりをしていきたい。

委員 C：前回の検討会で紹介された子どもの演劇活動をテレビで見たが、とてもよかった。こうした活動が継続できるとよい。

委員 A：現在も毎週土曜にワークショップを行っている。子ども35人が参加しており、11月25日の講演に向けて進めている。できるだけ子ども達だけでやっていけるよう支援している。できれば今後も継続してやっていきたい。

委員長：予算が付かないので活動ができないというのは寂しい。何か良いやり方がないか。

委員 D：そうしたことを話し合うのがこの会議の重要な役割である。

副委員長：予算・人力的に震災復旧に注力していただきたい思いがある。本日の力強い意見を受けて、一時休止を公にするというよりも、景観まちづくりの予算が無い中でも、景観まちづくりに寄与する取組みを繋いでいけないかと感じた。景観まちづくりの情報発信、氷見高校、他課との連携など何かとっかかりを探し、工夫して乗り越えていけるとよい。

委員 C：令和4年度から令和5年度にかけて、関わる人の広がりが数値的に読み取れるか。広がりがあれば、令和6年度もその流れを繋げていかなければならないと感じる。

事務局：参考資料1の企画者アンケート結果をみると、約40%の方がこうしたイベントに初めて当事者として関わったとある。継続的に取り組むことにより新規参入、人の広がりがあがることは間違いなく、都市計画課としても継続していきたいが、今年度については難しいという状況である。復旧状況も鑑みて早くて来年度から再開を目指していきたい。

委員 A：芸術文化館では、例えば今回の展覧会の間マルシェを6回程度やっており、4団体が主体となっている。展覧会で集客がされることでマルシェが立ち上がり、相互効果を生み出すことを目指している。今のところ相乗効果が生み出せており、先週末

のイベントでは、マルシェ 1000 人、展覧会 2000 人でそれぞれがお金を使っている。そうした発想は行政予算的な考え方とは異なり、復旧に集中しなければならない時期でやり方の工夫は可能なのではないか。

委員 C： イベントや活動の際、アンケート等を実施するのは市の予算が必要だが、そうしたことはやらなくてもよいので、とにかく活動に関する何かができるとうい。

事務局： これまでの実績を市民のみなさまに理解してもらうことも必要だと思うので、ニューズレターの発行等でつながりを切らさず、平時に思いをシフトしていってもらうことから始められると良い。

委員 D： せっかく盛り上がった機運を切らずに何とか続けることを考えるべき。芸術文化館のイベントにこれまで関わった人にも声掛けして、発展的な活動をやってもらうことも考えられるのではないか。

委員 B： みなさん同じ考えだと思うが、どう続けていくかが大事である。芸術文化館の取り組みは人を呼び込み、呼び込むことで利益が出て、出店者に還元されるよいやり方である。そうした活動を展開していけないか。芸術文化館は今年度も活動するとのことなので、そこにウエイトを置いて、委員も協力しながら来年度以降に繋いでいくことが大事なのではないか。

委員長： 市の状況も踏まえ、何かできることを検討していきたい。アイデアに対して市から資金的サポートをするのが難しいと思うが、民間的な発想で何か継続できる方向性を皆さんで探していけるとよいと思う。

副委員長： パースが「わかりづらい」といった意見があったことについて。対象としている国道 415 号沿道には 2 つの軸があり、それぞれの考え方がある。それぞれの地区をどういう地区にしていくか、景観まちづくりをどう進めていくのか、地区ごとの性格を表現できると分かりやすくなるのではないか（例：シンボルロードは人の活動が沢山たち現れる地区、氷見 IC 地区は田園の眺めを大事にする地区など）。例えばタイトルをつけるなど、そうしたことを大きく表せるとよいかもしれない。

事務局： 伝えたいことが明確に見えず、ぱっとしない印象となっている可能性がある。一目でそれが伝わる文章や表現を再考したい。

委員長： 今年度は休止とのことだが、本日の議論も踏まえ再び参集するかどうかお知らせいただければと思う。

事務局： 本検討委員会は今回をもって終了とさせていただきます、令和 6 年度に何かできることがあるかについては引き続き模索していければと思う。しかし、都市計画課の人員・予算的な事情により実行できることに限りがあることはご理解いただきたい。パースについてもわかりづらい等の意見があったが、ご意見を踏まえ対応を検討すると共に、氷見らしい景観とは何かについては、市民のみなさんと共に引き続き考えていきたいテーマである。

事務局： 検討会は終わるが、つながりを大切にしていきたい。今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

以上